

令和8年度光・量子飛躍フラッグシッププログラム (Q-LEAP) 公募 Q&A

2026/3/5 更新

(全体に関するもの)

Q1. 提案書は英語で記載可能か？

A1. 提案書に関して、日本語以外での提案記入の想定はしておりません。一部専門用語等について英語表記いただくことは当然問題ございませんが、基本となる提案書は日本語での記載をお願いいたします。

Q2. 人件費の単価について、それぞれの労務単価が利用可能か？

A2. それぞれの労務単価を利用いただくことは可能です。ただ、最終的な契約の際には労務単価（受託単価）がわかる書類の提出を求める場合がございます。

Q3. 提案書の様式について、Word ではなく PPT でも可能か？

A3. 締め切りまでに提出いただく内容については Word での所定フォーマットにて記載をお願いいたします。その中に図をはめ込むことは基本問題ございませんが、原則文章による説明を求めています。その後、面接にいらして発表いただく際には、審査員に提案内容をプレゼンテーションしていただきます。この時には Word での説明は適してないため、各機関独自フォーマットで PPT 等にて説明をお願いいたします。

Q4. 様式4の「代表機関の長のコミットメント」について、押印等必要か？

A4. 押印等は不要です。「今後、本人材育成プログラムを大学・研究機関、企業等の将来構想のなかでどのように位置づけ、支援（財政的、人的な支援措置を含む。）・マネジメントをするのか」を記載いただくものです。本 Q-LEAP 事業は採択後の契約は機関との契約になりますので、代表機関長のコミットメントを記載いただいているものです。

Q5. 公募要領の研究開発グループの体制について、名前の確定していない方の記載方法は？

A5. ○名という記載でお願いいたします（○には数字が入ります）。

Q6. 本日の説明会資料はもらえるか。

A6. 希望者にお渡しします。※後日公募ページにも掲載します。

Q7. 課題 A（高校生向け人材育成プログラム）、B（量子人材の活躍機会拡大プログラム）の重複申請は可能か。

A7. 重複申請、重複採択は可能です。ただし採択された場合は、それぞれの課題の報告等

の義務が生じます。

(A：高校生向け人材育成プログラム)

Q8. 公募要領に【人材育成プログラム・共通教材開発】とあるが、出前授業と人材育成プログラムは別のものなのか。

A8. 共通教材の開発をしたうえで、その教材を使った人材育成プログラムを実施いただくことを想定しています。

Q9. 教育プログラムはオンライン・ハイブリッドの設計でも問題ないか。

A9. 公募要領では、原則オンラインとしています。ただし、オンラインと併用することで効果が最大化されると考えられる場合や、また研究開発事業として対面とオンラインの効果を評価するなどのためにオンラインを併用いただくことは可能です。

以上